

第102回日商簿記3級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

当座預金	未収入金	買掛金	引出金
減価償却費	預り金	備品減価償却累計額	有価証券売却益
売掛金	有価証券	水道光熱費	支払手形
未払金	前払金	受取手形	固定資産売却損
固定資産売却益	売上	現金	前受金
有価証券売却損	給料	仕入	備品

- 北村商店にかねて注文しておいた商品 ¥ 500,000 を引き取り、注文時に支払った手付金 ¥ 50,000 を差し引き、残額は北村商店を名宛人とする約束手形を振り出して支払った。なお、引き取りの際、その運賃 ¥ 10,000 を現金で支払った。
- 平成20年10月31日に、不用となった冷暖房機（購入日：平成15年11月1日、取得原価：¥ 400,000、減価償却方法：定額法、耐用年数：6年、残存価額：取得原価の10%、記帳方法：間接法、決算日：年1回・10月31日）を ¥ 20,000 で売却し、代金は先方振出しの小切手で受け取った。なお、当期分の減価償却費の計上もあわせて記入すること。
- 8月15日に、7月分の電気料金 ¥ 40,000 の請求書を受け取ったので直ちに記帳した。ただし、当座預金からの引落日は、8月25日である。なお、電気料金のうち4分の1は、店主個人用住宅部分に対するものである。
- 先月分の従業員給料から差し引いた所得税の源泉徴収税額 ¥ 200,000 を税務署に現金で納付した。
- 保有している松雪物産株式会社の株式2,000株（取得原価：1株について ¥ 1,000、前期末における時価が1株について ¥ 800であったので、評価替えをし帳簿価額を修正済みで、この評価差額は切放法で処理する方法を採用している）を1株について ¥ 900 で売却し、代金は月末に受け取ることにした。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	仕 入	510,000	前 払 金	50,000
			支 払 手 形	450,000
			現 金	10,000
2	減 価 償 却 費	60,000	備 品	400,000
	備品減価償却累計額	240,000		
	現 金	20,000		
	固 定 資 産 売 却 損	80,000		
別解	減 価 償 却 費	60,000	備品減価償却累計額	60,000
	備品減価償却累計額	300,000	備 品	400,000
	現 金	20,000		
	固 定 資 産 売 却 損	80,000		
3	水 道 光 熱 費	30,000	未 払 金	40,000
	引 出 金	10,000		
4	預 り 金	200,000	現 金	200,000
5	未 収 入 金	1,800,000	有 価 証 券	1,600,000
			有 価 証 券 売 却 益	200,000

・解説

1. 仕入取引に関する問題です。

この問題は【前払金に関する仕訳】【約束手形に関する仕訳】【引取運賃に関する仕訳】に分けて考えると分かりやすいです。

【前払金に関する仕訳】

問題文に「注文時に支払った手付金 ¥ 50,000 を差し引き」とあるので、既に切られた仕訳を考えたうえで解答を導き出すと分かりやすいです。

☆既に切られた仕訳

(借) 前払金 50,000 / (貸) 現金など 50,000

★解答仕訳①

(借) 仕入 50,000 / (貸) 前払金 50,000

ここで注意していただきたいのは、前払金勘定と仮払金勘定の違いについてです。

前払金というのは、なんのためのお金かはっきりしている状態で支払った場合に計上する勘定で、一方、仮払金というのは、なんのためのお金かはっきりしてはいないが、とりあえず先に支払った場合に計上する勘定です

本問の場合は、問題文に「注文時に支払った手付金 ¥ 50,000 を差し引き」とあり、なんのためのお金かはっきりしている状態で支払っていますから、前払金勘定を使って処理していたと判断します。

【約束手形に関する仕訳】

問題文に「残額は北村商店を名宛人とする約束手形を振り出して支払った」とあるので、残額の450,000円(=500,000円-50,000円)を支払手形勘定で処理します。

★解答仕訳②

(借) 仕入 450,000 / (貸) 支払手形 450,000

【引取運賃に関する仕訳】

引取運賃などの付随費用は、商品を仕入れるさいに不可避免的に発生する費用なので、仕訳を切るさいは仕入勘定に含めて処理します。

商品の仕入原価(510,000円) = 購入代価(500,000円) + 付随費用(10,000円)

★解答仕訳③

(借) 仕入 10,000 / (貸) 現金 10,000

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。

2. 固定資産の売却に関する問題です。

固定資産は期首に売却する場合と、期中(または期末)に売却する場合とで処理が異なるので、まず問題がどちらに該当するのか確認しましょう。

■期首に固定資産を売却する場合

当期の減価償却費はゼロなので、取得原価から期首備品減価償却累計額を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

売却時の帳簿価額 = 取得原価 - 期首備品減価償却累計額

■期中(または期末)に固定資産を売却する場合

当期の減価償却の処理に関する指示が入るので、それに従って当期の減価償却費を(月割で)計算します。そのうえで、取得原価から期首備品減価償却累計額&当期の減価償却費を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

売却時の帳簿価額 = 取得原価 - 期首備品減価償却累計額 - 当期の減価償却費

■本問はどっち?

問題文の「平成20年10月31日に、不用となった冷暖房機を ¥20,000 で売却し」「決算日: 年1回・10月31日」から期末に売却したことが分かります。

また、問題文に「当期分の減価償却費の計上もあわせて記入すること」という指示があるので、まず当期の減価償却費を計算します。

400,000円 × 90% ÷ 6年 = 60,000円

次に、期首備品減価償却累計額を計算します。具体的には…購入日の平成 15 年 11 月 1 日から前期末日の平成 19 年 10 月 31 日までの 4 年間分の減価償却費の金額になります。

$$400,000 \text{ 円} \times 90\% \div 6 \text{ 年} = 60,000 \text{ 円} / \text{年}$$

$$60,000 \text{ 円} / \text{年} \times 4 \text{ 年} = 240,000 \text{ 円}$$

当期の減価償却費と期首備品減価償却累計額の金額を計算したら、取得原価からこれらを差し引いて売却時の帳簿価額を計算します。

$$\text{取得原価 } 400,000 \text{ 円} - \text{期首備品減価償却累計額 } 240,000 \text{ 円} - \text{当期の減価償却費 } 60,000 \text{ 円} = 100,000 \text{ 円}$$

最後に、売却時の帳簿価額と売却価額との差額で売却損益を計算します。売却価額 20,000 円は先方振出しの小切手で受け取っているため、**現金**で処理します。

- ・売却時の帳簿価額 = 100,000 円 ・売却価額 = 20,000 円
- ・差額 = 80,000 円（帳簿価額 > 売却価額…**売却損**）

★解答仕訳

(借) 減 価 償 却 費 60,000 / (貸) 備 品 400,000

(借) 備品減価償却累計額 240,000

(借) 現 金 20,000

(借) 固 定 資 産 売 却 損 80,000

なお、上記の仕訳は、「当期の減価償却の処理」と「売却の処理」を 1 本の仕訳にまとめていますが、まとめずに別々に処理しても構いません。その場合、借方と貸方の備品減価償却累計額のコличествоが変わります。

★別解

(借) 減 価 償 却 費 60,000 / (貸) 備品減価償却累計額 60,000

(借) 備品減価償却累計額 300,000 / (貸) 備 品 400,000

(借) 現 金 20,000

(借) 固 定 資 産 売 却 損 80,000

固定資産の売却に関する問題は、第 105 回の問 2や第 108 回の問 1、第 115 回の問 4、第 119 回の問 5、第 120 回の問 3、第 122 回の問 5、第 132 回の問 2、第 134 回の問 1、第 135 回の問 3、第 136 回の問 2、第 137 回の問 3、第 138 回の問 2、第 142 回の問 1、第 146 回の問 2、第 149 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 資本の引き出しに関する問題です。

電気料金 40,000 円を使用割合に基づいて営業用（事業用）と店主用の 2 つに分けて、前者を当期の費用として**水道光熱費**で費用処理し、後者を**資本の引き出し**として処理します。

なお、本問は問題で列挙されている勘定科目の中に引出金がある（資本金がない）ので、資本の引き出しに関する仕訳は**引出金**で処理します。

- ・ 4分の3は営業用 → 30,000円 (= 40,000円 × 75%) は水道光熱費で費用処理
- ・ 4分の1は店主用 → 10,000円 (= 40,000円 × 25%) は引出金で処理

また、問題文の「当座預金からの引落日は、8月25日である」から、仕訳時点(8月15日)では当座預金口座から引き落とされていないことが分かるので、当座預金ではなく未払金で処理します。

資本の引き出しに関する問題は、第106回の間4や第107回の間2、第111回の間3、第114回の間2、第117回の間5、第122回の間1、第125回の間2、第126回の間5、第127回の間5、第129回の間5、第133回の間3、第135回の間4、第136回の間1、第139回の間4、第145回の間1、第147回の間2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 所得税の源泉徴収に関する問題です。

本問のように「すでに切った仕訳を前提とする問題」は、一度仕訳を書いて考えてみると分かりやすいです。

☆参考・給料支払時の仕訳(すでに切った仕訳)

(借) 給料 200,000 / (貸) 預り金 200,000

★解答・預かっていた所得税を納付するさいの仕訳

(借) 預り金 200,000 / (貸) 現金 200,000

所得税の源泉徴収に関する問題は、第100回の間3や第101回の間3、第106回の間5、第109回の間2、第117回の間4、第121回の間2、第128回の間4、第130回の間3、第131回の間4、第140回の間4、第142回の間2、第143回の間5、第145回の間5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 有価証券の売却・未収入金に関する問題です。

帳簿価額と売却価額との差額を売却損益で処理しますが、帳簿価額は前期末に評価替えされているので、帳簿価額は取得時の単価(@1,000円)ではなく、**前期末の時価(@800円)**で計算しましょう。

・ 帳簿価額 = @800円 × 2,000株 = 1,600,000円

・ 売却価額 = @900円 × 2,000株 = 1,800,000円

・ 貸借差額 = 1,800,000円 - 1,600,000円 = **200,000円** (帳簿価額 < 売却価額 → 売却益)

なお、売却代金はまだ受け取っていないので、未収入金で処理します。

有価証券の売却に関する問題は、第110回の間1や第116回の間5、第118回の間1、第123回の間4、第126回の間4、第131回の間1、第142回の間4、第147回の間5でも出題されているので、あわせてご確認ください。